

令和 3 年 10 月 6 日

コロナ禍でも国際交流をあきらめない！ —行政政策学類大黒ゼミによる「台湾キッチン tarotaro」の開店

行政政策学類大黒ゼミ（政治過程論演習）では、10月30日（土）・31日（日）の2日間にわたって、「コラッセふくしま」の福島県観光物産館フードコート「ふくしまラウンジ」で、「台湾キッチン tarotaro」を開店します。

コロナウイルスによる活動制限・渡航制限という厳しい状況のもとでも、これまで続けてきた日台交流をあきらめたくない！—その思いで、Web会議システムを利用したアイデア交換を通じて日台の学生が「豚まん」を共同開発しました。当日は、この「豚まん」に加え、台湾のソウルフードである「魯肉飯（ルーローハン）」や台湾土産の定番「パイナップルケーキ」などが販売されます。

国際交流がこれからも私たち福島県民の「日常」であり続けますように。
みなさんも、ぜひ台湾に触れてください！

行政政策学類の大黒ゼミ（政治過程論演習）では、平成30年度から、台湾の2大学、国立台北大学（台北）と文藻外語大学（高雄）との交流を続けてきました。

平成30年度と平成31年度には、延べ40名を超えるゼミの学生が台北市・高雄市を訪れ、それぞれの大学で、震災後の福島の現状や、長年飯館村で展開してきたゼミの復興支援活動について報告するとともに、日台学生がともに市内でフィールドワークを実施するなど交流を深めてきました。

また、平成31年度には、夏と冬の2度にわたって、台湾の両大学から述べ25名の大学生を福島に受け入れました。台湾は震災以降、福島県産農産物や加工品の輸入制限を続けていますが、彼らに飯館村で梅干しづくりや凍み餅作りを通して、被災地で「食と農」に携わる人たちの真摯な取り組みを体験してもらい、福島の人と農、食への信頼を獲得するための試みです。また、南会津町の小学校では、台湾からの留学生の指導のもと、子供たちと一緒に台湾デザート（杏仁豆腐とタピオカドリンク）を作って一緒に楽しく食べるなど、地域の奥深くに入りこんだ交流活動も実施しました。

これからも地域に入り込んだ日台交流を深めたい—そういう思いを深めてい

たとき、私たちが突然直面したのがコロナウイルスの蔓延でした。

せっかく2年間にわたり続けてきた日台学生交流を途絶えさせたくない！
その思いから、新たな試みとして私たちが企画したのが「台湾キッチン tarotaro」の出店です。

私たちはこの間、Web 会議システムを通じた定期的な交流で、両国の「肉まん」文化を報告し合って、「おいしい肉まん」について意見交換して商品開発を行ってきました。また、地域で台湾カフェを経営する方に台湾料理の調理ワークショップを開催していただくなど、試作も続けてきました。

こうして、さまざまな制約のなかでもできることを重ね、この度、10月30日（土）と31日（日）の2日間、「コラッセふくしま」の福島県物産館のフードコート「ふくしまラウンジ」で、私たちの日台交流の成果をみなさんにお披露目することができることとなりました。

当日は、目玉となる日台学生交流で創りあげた「豚まん」のほかに、台湾のソウルフードである「魯肉飯（ルーローハン）」、中華料理の代表格の「麻婆豆腐」、台湾土産の定番「パイナップルケーキ」など、台湾を身近に感じられるメニューが提供されます。また、これまでの私たちの日台交流の4年間についてのパネル報告も行なう予定です。

コロナウイルスの蔓延による行動制限・海外への渡航制限という厳しい条件のなかでも、多くの県民のみなさんに、国際交流の意義と楽しさを感じていただければと思っています。

今後も私たちは、さらに多くの台湾の大学生や若者たちを、福島県、とりわけ被災地での活動に招待し、より広く、また深く、日台交流を深めていきます。

なお、本活動は、飯舘村の復興支援活動を支援する、一般財団法人飯舘までい文化事業団と協力して実施しています。

(お問い合わせ先)
行政政策学類准教授 大黒 太郎
電話：024-548-8026
メール：a027@ipc.fukushima-u.ac.jp